

振り返りと今後の進め方



＜これまでの懇談会いただいたご指摘＞

- ① モデル地区の考え方を整理すべきではないか。
- ② モデル地区の期間・検証目的・評価軸は適切か。
- ③ インフラツーリズムの次の戦略を考えるべきではないか。
- ④ 好事例をキャッチ・評価・フォローする体制が必要ではないか

これらのご指摘を踏まえ、

□ これまでの取組の振り返り

□ 「インフラツーリズム」の今後の進め方

について、本日はご意見をお伺いしたい。

これまでの取り組み

平成25年6月 「インフラツーリズム」という概念の誕生

※「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」(観光立国推進閣僚会議)

平成28年 インフラツーリズムを紹介するポータルサイトを開設

平成30年11月 インフラツーリズム有識者懇談会 設立

【懇談会の設立趣旨】

インフラを観光資源として活用するインフラツーリズムの付加価値を高め、地域や民間と連携した新たなインフラツーリズムに育て、展開していくために必要な方策について幅広く議論すること

【魅力倍増プロジェクトの目標】

年間来訪者の倍増: 2017年 50万人 ⇒ 2020年 100万人

平成31年3月 「インフラツーリズム拡大の手引き(試行版)」とりまとめ

令和元年7月 モデル地区5地区において社会実験開始(魅力倍増プロジェクト)

令和2年8月 モデル地区2地区(計7地区)において社会実験開始

令和5年10月 「インフラツーリズム拡大の手引き(改訂版)」公表

※COVID-19に伴う移動の自粛等
(令和2年1月～令和5年5月)

令和5年8月 モデル地区3地区(計10地区)において社会実験開始

令和6年4月 モデル地区3地区(計13地区)において社会実験開始

■ インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトでの取組と課題

【プロジェクト・取組】

1. モデル地区での社会実験の実施

→社会実験を実施し、知見を様々な事業へ展開する

<取組>

- ・モデル地区7箇所を選定して取組を実施
- ・4箇所で民間主体のツアーを開催

2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

→インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る

<取組>

- ・ポータルサイトによるツアー紹介
- ・多言語版のパンフレット作成

3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握した インバウンド対応

→増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握し適応する

<取組>

- ・受入環境整備(案内板の多言語化等)

【課題】

- ・インフラ施設の分野に偏りがある
- ・地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない
- ・モデル地区の知見の全国展開が不足

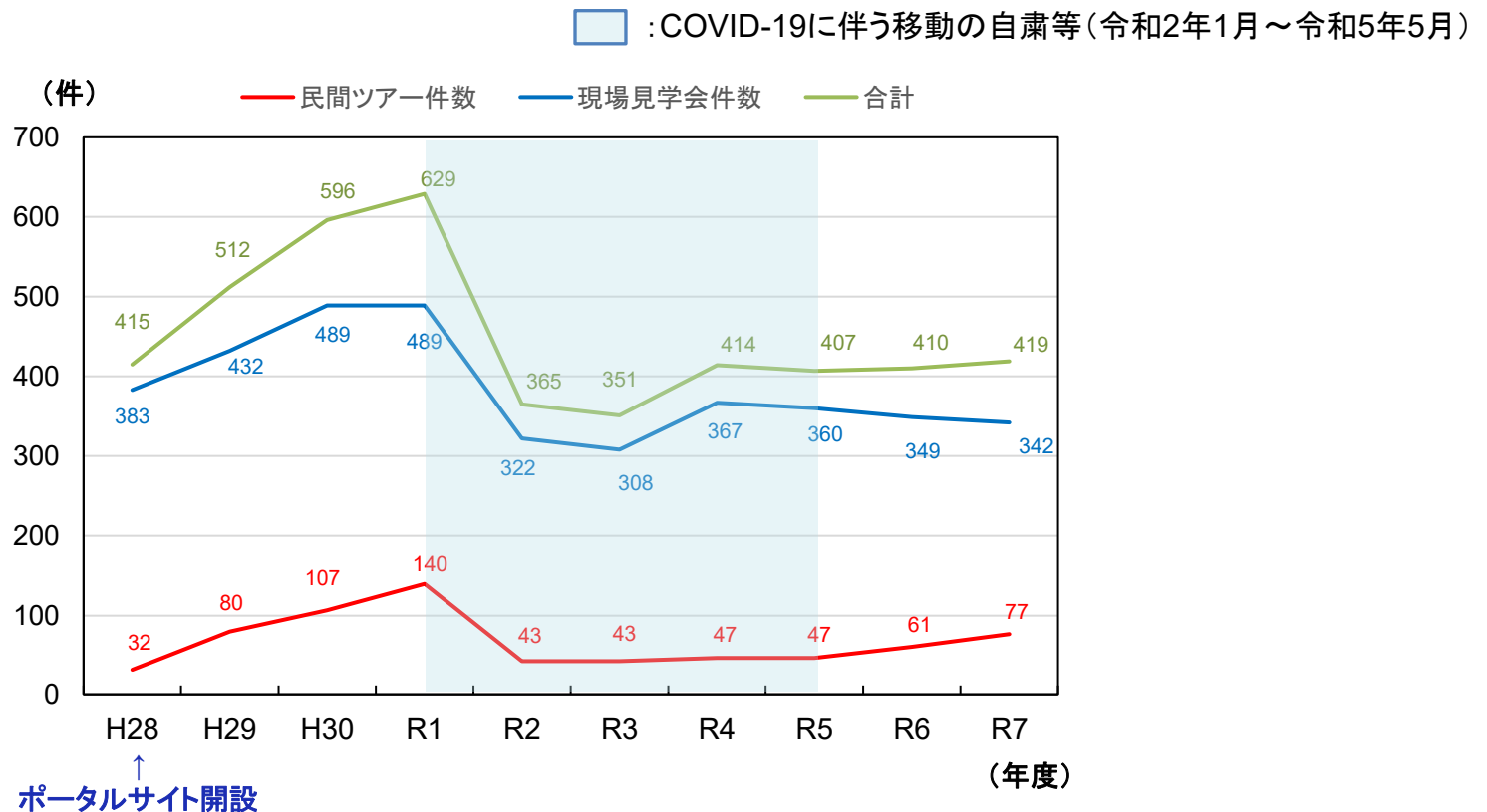
- ・プッシュ型の広報ができていない
- ・魅力を伝えるコンテンツが不足

- ・コロナ禍でインバウンドの動向が把握できていない

これまでの取組の振り返り② ツアー掲載件数の推移

- 平成28年にインフラツーリズムを紹介するポータルサイトを開設した。
- ポータルサイトでは、全国各地で実施されているインフラツアーを掲載・紹介している。
- ツアー件数は、コロナ禍で減少したものの、民間ツアー件数は年々増加傾向にある。

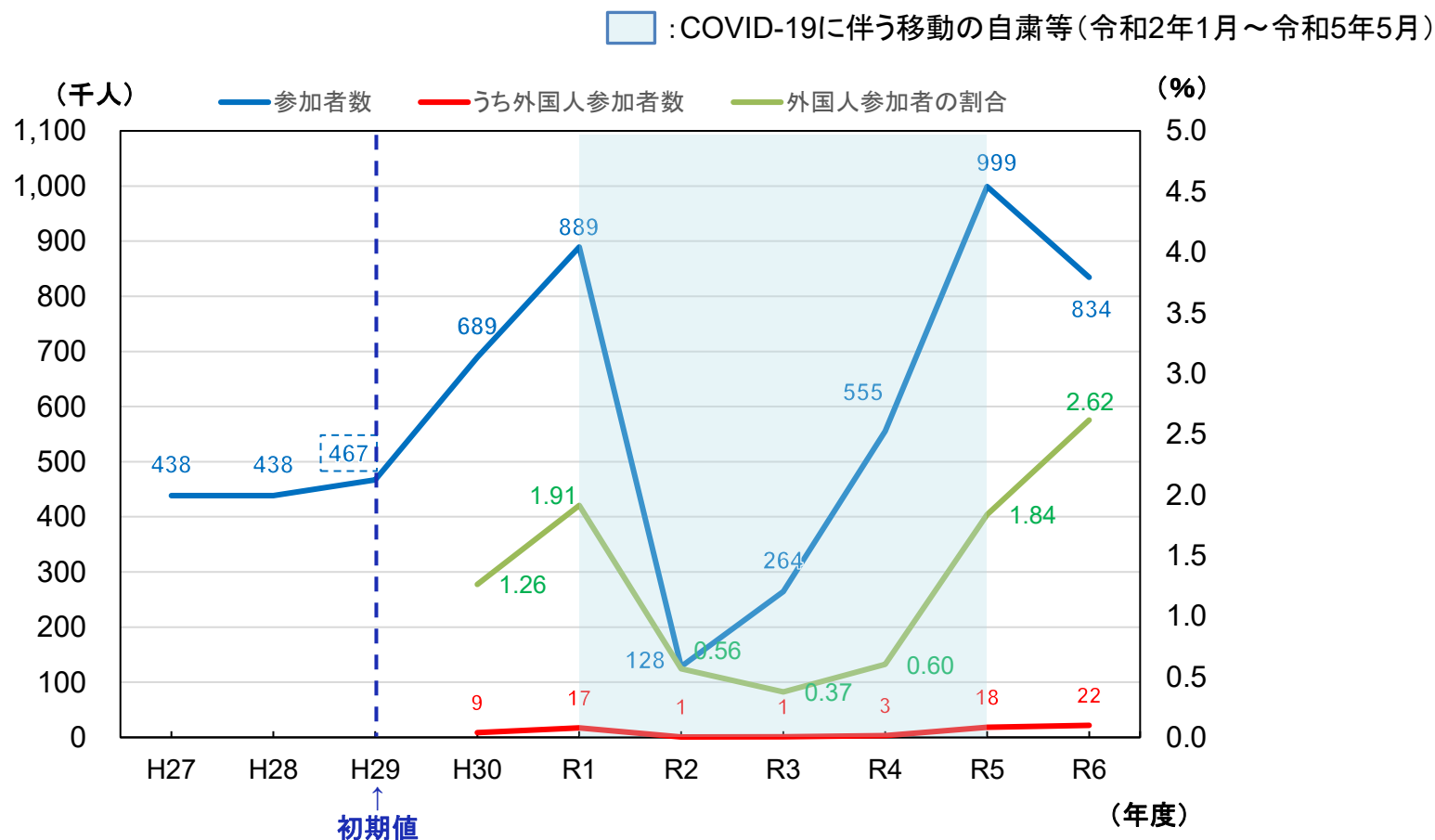
ポータルサイトのツアー掲載件数の推移



これまでの取組の振り返り③ ツアー参加者の推移

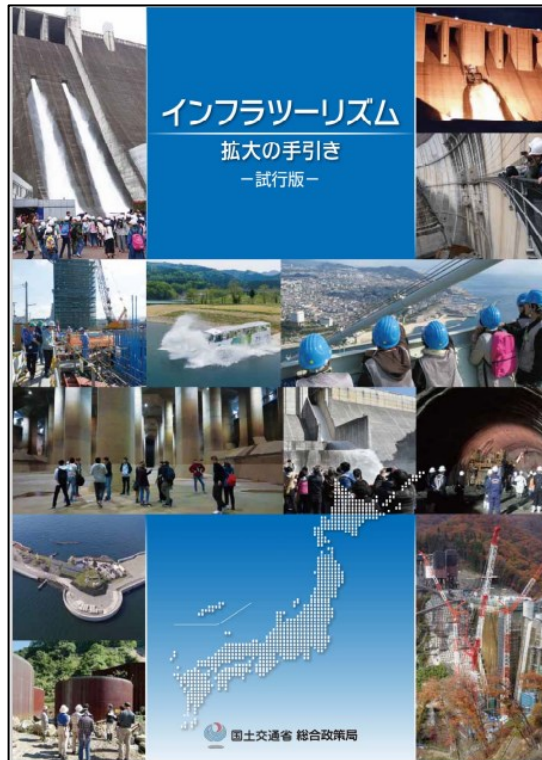
- 平成29年時点でインフラツアーへの参加者は、約50万人だった。
- 「魅力倍増プロジェクト」では、この参加者数を令和2年時点に100万人に倍増することを目標としていた。
- コロナ禍の影響もあり令和2年度には達成できなかったが、令和5年度は約99万人となった。
- なお、ツアー参加者の外国人の割合はコロナ前に比べても増加傾向にある。

■ ツアー参加者の推移



これまでの取組の振り返り ―インフラツーリズム拡大の手引き―

- 平成31年3月に「インフラツーリズム拡大の手引き(試行版)」を公表。
- 魅力増進プロジェクトの一環として、令和元年7月にモデル地区における社会実験を開始。
- モデル地区における取組も踏まえ、令和5年10月に「インフラツーリズム拡大の手引き(改訂版)」を公表。
- 「拡大の手引き」はポータルサイトに掲載しており、閲覧数は約8,900(令和5年度:約3,700、令和6年度:約5,200)に上る。



試行版(平成31年3月発刊)



改定版(令和5年10月発刊)

■インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの取組、課題、実績

【プロジェクトと取組】

1. モデル地区での社会実験の実施

社会実験を実施し、知見を様々な事業へ展開する

＜取組＞

- ・モデル地区7箇所を選定して取組を実施
- ・4箇所で民間主体のツアーを開催

2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る

＜取組＞

- ・ポータルサイトによるツアー紹介
- ・多言語版のパンフレット作成

3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握し適応する

＜取組＞

- ・受入環境整備(案内板の多言語化等)

【課題(R4年度末時点)】

- ・インフラ施設の分野に偏りがある
- ・地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない
- ・モデル地区の知見の全国展開が不足

- ・プッシュ型の広報ができていない
- ・魅力を伝えるコンテンツが不足

- ・コロナ禍でインバウンドの動向が把握できていない

【取組実績】

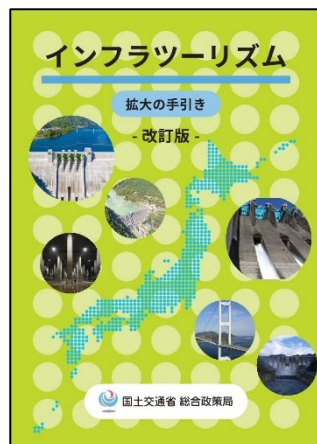
- ・モデル地区の選定において分野を意識し、ダム(5)、橋(2)、砂防施設(3)、その他(3)で取組を実施
- ・集客のある観光資源周辺に眠ったインフラで取組を実施(温井ダム)
- ・魅力あるコンテンツの強化(首都圏外郭放水路)

- ・モデル地区成果発表会実施(R5.5)
- ・魅力発信手法の検討
 - ✓SNSや旅行雑誌等の活用
 - ✓魅力あるチラシ等によるPR(各モデル地区が主体となり実施)

- ・インバウンドの動向を踏まえた受入環境整備(ハッ場ダム、立山砂防など)

これまでの取組の振り返り(まとめ)

インフラツーリズム有識者懇談会の設立趣旨は、
『インフラを観光資源として活用するインフラツーリズムの付加価値を高め、地域や民間と連携した新たなインフラツーリズムに育て、展開していくために必要な方策について幅広く議論すること』
としている。



これまでの取組とその成果を踏まえ、より幅広く展開していく、また、その展開のために必要な方策を検討していく段階ではないか

<事務局案>

- ツアー参加者の属性(ターゲット層)を拡大したい
- 地域の悩みに寄り添い、新たな形の支援をしたい
- モデル地区に限らず、好事例を把握・応援し、横展開につなげたい



これからの取り組み(事務局案)

【目標】

【展開の方策】

【具体の取り組み(案)】

インフラツアー
参加者属性の拡大
(ターゲット層拡大)

新たなかたちでの
社会実験

- ①過年度(現在含む)モデル地区へさらなる拡大支援
- ②新たなモデル地区を選定し支援
 - ・ターゲット層拡大への意欲がある施設を選定
 - ・意欲のある自治体や施設管理者等へ予算配布を行い、地域や施設管理者が中心となって地域のニーズおよび子供向け・インバウンド等向けコンテンツの造成、参加者の属性にあわせた魅力的な広報手段の検討を実施
 - ・社会実験の結果を踏まえ、地域や施設分野、参加対象の属性にあわせた手引き(仮)の作成

地域の悩みに
寄り添う新たな
支援をしたい

同じ悩みをもつ人達
が相談しあい、
ほしい情報を取りに
行ける場の構築

- 全国インフラツーリズム意見交換会
 - ・モデル地区に限定せず、全国各地のインフラツーリズムに取り組む方々の意見交換の場を設置
 - ・意欲のある自治体・民間・施設管理者等幅広く参加者を集め、有識者等にアドバイスや気づきを得られる場の構築
(参考:インフラメンテナンス国民会議、全国多自然川づくり会議等)

好事例の横展開

モデル地区に限ら
ず、好事例を把握・
評価・応援し、横展
開する仕組みづくり

- インフラツーリズム表彰制度 等
 - ・インフラツーリズム推進のために尽力している活動団体(国、自治体、民間なども含め)への表彰制度や認定制度の創設
(参考:手づくり郷土賞、かわまち大賞等)